

もりのかぜTM Vol.14



森を感じる情報誌——Green Page Akita

緑の募金で
ふせごう地球温暖化



公益社団法人 秋田県緑化推進委員会

いおろす (Aeolus) はギリシア神話に登場する「風の神」であり、豊かな森と妖精を合わせたイメージとして生まれたこの冊子のキャラクターです。

〈CONTENTS〉特集●甕山 森の恵みを生かす／2 緑育REPORT／4 秋田県森の案内人協議会／6
GREEN PAGE AKITA／8 Photographこの一枚／10 あきた・緑化の足跡／11 インフォメーション／12

甕山は、秋田・山形の県境に連なる丁山地の東端部に位置し、山域全体が急峻な岩場を抱いた二つの岩峰の男甕、女甕からなっています。山頂からのパノラマやブナ巨木、高山植物など見応えがあります。

特集

甕山

こしき

やま



男甕のシンボル・鳥帽子岩

写真左は鳥海山。男甕の南東側は、スラブ状の大岩壁。右側の岩峰は女甕。



女甕山頂直下から男甕を望む



途中、沢を渡る箇所があるので足元に注意

巨大なウイルソクカツラは圧巻



静寂に包まれた名勝沼は新緑・紅葉ともに美しい



男甕から望む女甕

雌雄の双耳峰

登山口から女甕(979m)を目指して行くと小沢を三箇所渡る地点があり、その先でカツラ巨木の幹根(ウイルソクカツラ)に出会います。カツラ巨木を過ぎると女甕直下にひっそりと佇む名勝沼に出ます。沼は周囲の木立を鏡のように映し、幻想的な美しさです。沼から甕コルへと急坂を登り、甕コルから女甕山まではさらに急登となります。

眺望のよい女甕山頂からは鳥海山、神室山、高松岳、眼下に広がる美しい樹海が望めます。

甕コルに戻り、名勝沼を見下ろしながら主稜線上を登り、ブナ林を抜けると男甕山頂(981.3m)です。山頂から遥か彼方に月山を望み、目前には勇壮に突き出た鳥帽子岩が見えます。南東側は二百mにも切れ落ちたスラブ状の大岩壁です。

下山はブナ林の県境尾根を下り、名勝沼分岐から登山口へと戻ります。低山ながら急登の連続があり、健脚者向きの山です。



女甕から望む美しい樹海



男甕へ向かう急坂付近のブナ巨木

アクセス

国道108号で由利本荘市鳥海町上笹子へ向かい、国道沿いの大きなモニュメントから赤倉集落を経て甕林道を進む。赤倉集落から甕林道入口まで約6km。林道入口から登山口まで約4km。

《問い合わせ》

由利本荘市役所鳥海総合支所 産業課 TEL 0184-57-2205



名勝沼近くに見られるサンカヨウの群落



秋田っ子の情操を育む 秋田スギの積み木

木の良さや文化に親しむことを通じて、木材利用の意義や、森林環境への理解を深める「木育活動」。秋田県内でも、木のおもちゃ体験や木工ワークショップなど、さまざまな取り組みが行われていますが、県内の幼稚園や保育園で親しまれている、ある「積み木セット」のことをご存じでしょうか？

木のぬくもり伝わる 秋田スギの積み木

秋田スギのやさしい木肌が感じられる、かわいらしい積み木。「無塗装、軽くすべらかな手触りで、幼児の小さな手にもやさしく扱いやすい」と好評を得ているのが95個の積み木を収納した「つみぎこぼこ」です。積み木を重ねる時のコン、コンと触れ合う音も心地よく、豊かな感性の芽生えにも貢献してくれそうです。板の接合部に使われているダボも木製で、安全に配慮して作られています。「木」づかいと「気」づ

かいが感じられる「つみぎこぼこ」は、ウッドデザイン賞2017（ソーシャルデザイン部門）の入賞作品でもあります。

この積み木が600個ほど収納されている「積み木セット」。箱はかなり深めの印象ですが、「お片付けの時に、多少乱雑に入れてもおさまりがいいように」余裕のあるサイズとなっているのだとか。

秋田県緑化推進委員会により、「積み木セット」は2008年から県内全域の幼稚園・保育園を対象に貸与されているほか、2012年からは要望のあった園にプレゼントする活動が行われてきました。

ひとつひとつが丁寧な手仕事

「積み木セット」と「つみぎこぼこ」の作り手は、秋田市上新城地区にある、社会福祉法人 秋田福祉協会 指定障害者支援施設「小又の里」に入所・通所され

指定障害者支援施設 「小又の里」



幼稚園・保育園で「積み木セット」は大人気。ほかに各団体主催のイベントや、子ども向けワークショップでも使用されている。



丁寧な手仕事ですべらかな手触りを生み出す



1個1個丁寧にやすりがけ



糸ノコでの作業は
綿密で高い集中力を要する



あたたかみのある木製品が日々生み出されている作業場

いつの日か、 秋田の子どもの共通体験に

「なでたり、模様が違うなど眺めたり、しばらく夢中になっていました」「いろんな遊びができて想像力が広がる」

「まるみがあって危なくないので、安心して見ていられます」

積み木で遊ぶ子どもたちの様子を伺ってみると、木（秋田スギ）の持つぬくもりや、やさしい色合いは、確実に子どもたちの心を涵養しているようです。

現在は、新型コロナウイルスの影響につき「積み木セット」の贈呈プロジェクトは中断中とのことですが、「秋田っ子は、みんなこの秋田スギの積み木に触れて大きくなった」と語られる日も近いかもしれません。

指定障害者支援施設「小又の里」

障害を持った方々が、社会人として自立自活することをバックアップする指定障害者支援施設。生活介護および福祉就労（就労継続B型）を基本機能として、個性、能力に応じた支援が行われている。

社会福祉法人 秋田福祉協会
指定障害者支援施設「小又の里」
〒010-0132
秋田県秋田市上新城小又字落合85番地
TEL:018-870-2361
<http://www.omatanosato.jp/>



木のぬくもりあふれる
ガーデニング用品。
手触り良く、仕上げの
良さが伝わる。

その丁寧な仕事ぶりが人づてに伝わり、「つみぎこぼこ」は雑貨店のほか、首都圏の住宅メーカーからの受注もあるそう。こういった小物のほかにも、ガーデニング用品（テーブルセット、ベンチ、フラワーボックスなど）やカントリー調家具など、個人や団体を問わないオーダーメイド品なども製作。何気なく街中で目に見えている木製品にも、実はメイドイン「小又の里」というものもあるそうです。



「積み木セット」



杉の木目がやさしい
コースター





栄光 学校林活動 全日本準特選
令和3年度全日本学校関係緑化コンクール
(学校林活動の部)

秋田市立秋田北中学校

美しい自然に恵まれた秋田県では、古くから学校林等を中心とした森林環境教育が盛んです。緑にふれることによって、子どもたちの環境への理解が深まるとともに、豊かな人間性を育む……そんなすばらしい教育活動を実践している小中学校を紹介するシリーズです。

近年、学校の統廃合を機に「学校林を持たない」とする学校が増える中、秋田北中学校(以下、秋田北中)は平成29年に学校林を創設し、自然や森林に関する体験学習のフィールドとして、また地域を守る大事な環境財として、その保全活動を実践してきました。そして、こうした取り組みが高い評価を受け、令和3年度全日本学校関係緑化コンクール(学校林活動の部)において「準特選(国土緑化推進機構会長賞)」という荣誉に輝きました。その先進的ともいえる取組について紹介します。

29年、松林を所有する県から「学校林」として借り受け、以降、毎年全校生徒が参加して保全活動を行っています。校舎からは歩いておよそ20分(1・1キロメートル)、目と鼻の先にあります。

松林を選んだ理由

①総合的な学習の時間の体験学習の場
それまで秋田北中には「学校林」というものはなく、自然体験活動ができる場所として、世界遺産・白神山地を訪問してきました。しかし、体験できるのは2年生時の1回だけ。そこで、日常的にも活動でき、さらに全校生徒が関わることでできるフィールドを探したところ、校舎の間に近にある「夕日の松原」が有力候補として浮上しました。

②地域が抱える問題
今年度、秋田北中は創立60周年を迎えますが、100年前のこの地は旧雄物川

学校林は砂防林

学校林は、秋田市から潟上市の沿岸部に配備された「夕日の松原」の一角にあり、広さおよそ18ヘクタール、樹齢60〜70年のクロマツ・アカマツの林です。平成

河口に形成された砂丘地帯で、人も住めない、いわば不毛の地となっていたところ。昭和7年(1932)から始まった県営砂防林造成事業で松が植えられ、飛砂や潮風などの環境が安定化したため、宅地や耕地が増加しました。

保全活動

総合的な学習の時間ではまず、松林がなぜ作られ、どんな働きをするのか、また、マツ枯れのしくみや、松林を健全に育てるための方法など、活動に向けての基本的な知識を学びます。また、毎年1年生を対象に「夕日の松原形成史」という講演会を開催し、地域を守る松原の歴史や保全の意義を学びます。

次は実践です。全校生徒がノコギリやレーキを携え、林内で道具の扱い方や作業の仕方の説明を受けた後、班に分かれて行動を開始します。弱ったマツを切り倒し、それを切り刻んで運び、一方では

地域との協働

活動の様子や成果は、学年通信やPTA会報、学校報を通じて、保護者や学区内全戸に伝えてきました。その結果、松林を拠点として活動している炭やきや清掃活動グループなどから次第に声がかかるようになり、保全活動の輪はボランティア活動に姿を変え、生徒、PTA、教職員などへ波及していきました。

一方、学校林活動に対しては、地域から積極的に応援や協力が得られるようになりました。砂防林の学識経験者である宮崎一彦氏が講師として、また林業技術の専門家である草薮光氏が現地指導者として参画するなど、学校と住民との共助の関係は地域全体を巻き込んだ活動に発



道具や作業、林内の植生について説明を受ける



指導を受けながら間伐、落ち葉掻きなどの保全作業。仲間との楽しい共同作業。



宮崎一彦氏による講演



秋田県教育庁中央教育事務所 武田指導主事が来校して緑化コンクールの賞状授与

2011年3月に東日本大震災が発生し、東北地方太平洋側の松林は津波で壊滅的被害を受けました。その規模は数千ヘクタールにも及び、今、再生途上にある若い松林は成長に応じて手入れが追いつかなくなると云われています。秋田北中の取組が被災地の復興において、その解決の一助になるものと期待されています。

おわりに

展開していったのです。このように、学校林活動が、生きた総合的な学習の時間として学校行事に定着し、また地域の環境保全に貢献する事例は、国内でも他に類を見ることができません。

レーキで松葉を掻き取り、集めた松葉を運び出すといった、松林のクリーンアップで気持ち良い汗を流します。また、時折折出会うキノコや植物、昆虫などについて学ぶ機会もあります。



秋田北中学校と学校林のある「夕日の松原」



秋田県

森の案内人協議会

Vol.3

「森の案内人」とは、皆さんが林業体験や自然観察などで、森林を学ぼうとするとき、その活動の手助けをするのが「森の案内人」です。「森の案内人」は、森林・林業、森の学び、森遊びなどに熟知しており、独自の育成講習で資格認定を受けて、ボランティア活動を行っています。

私たち秋田県森の案内人は、子どもたちや興味のある方たちを森に誘い、森の不思議や美しさ、自然の偉大さなどを一緒に体験体感していただく活動を行っています。それは、樹木の生長であったり、ひんやりとした空気の安らぎであったり、生き物の観察や森の遊び、オリエンテーリングやキャンプ、炭焼きや木工クラフト、そして地域に残る伝承や森林文化など様々です。そして、その原点は「森と木の生活を楽しむ」ことにあります。

森と木の生活塾

総勢50名の森の案内人がいる中で、一年に一度だけ、集中して活動する日があります。「森と木の生活塾」と称し、プラザクリプトンとその周辺山林を会場に、夏休みの特別イベントとして行っているものです。それは、森の案内人それぞれが持っている得意技やオリジナリティのある活動を一挙にまとめて公開するもので、今年も7月30日にコロナ感染防止対



森の散策



木工体験



木の実でクラフト



夏休みの特別イベント「森と木の生活塾」は恒例のアルプホルンのファンファーレで始まる



5月のワンデイハイクは「寒風山」地史や植物を学ぶ



策を充分とりながら行いました。子どもにも大人にも喜んでもらえる豊富なメニューを用意し、その日一日で多くの出会いと発見があります。夏休みの宿題や体験学習の場として、親子で参加されている方も年々増えています。アルプホル

ン吹奏ファンファーレで始まり、森の散策やセラピー体験、森の恵み実演・紙芝居・ネイチャーゲーム・アウトドア体験、モルックゲーム等々ですが、その内容については本誌Vol.12に詳しく紹介しています。

ツアー企画

県内選りすぐりの絶景や原自然的風景を見て、触れて、体感していただくため、一般市民を対象としたツアーを企画しています。5月には早春のワンデイハイクとして男鹿寒風山を巡り、日本海

を眺めながら地史や植物を学びます。また、6月には花の百名山で有名な「秋田駒ヶ岳」に登り、初夏を彩る可憐な高山植物と遙か彼方にみえる山々の遠望を楽しみます。特に今年は好天に恵まれ、残雪を抱く鳥海山や森吉山、岩手山などをくつきりと見ることができました。さらに、10月には乳頭高原において紅葉の



6月のワンデイハイクは「秋田駒ヶ岳」登山。遠方に岩手山を望みながら稜線を歩く



植物観察

たくさんの可憐な高山植物に癒される

みどりの普及活動に貢献

私たち森の案内人は、秋田県が「案内人」として認定しているものであり、ある意味、県の思いを皆さんに告げる団体でもあります。こうしたことから、県主催の森林祭では毎年ブースを設けて木工体験などの場を提供するとともに、秋田県緑化推進委員会の催し事業、例えば、秋田駅前広場での緑の募金活動や緑の少年団等の交流集会などにおいて、講師や先導役として参加協力させて頂いております。残念ながら今年は森林祭以外、いずれもコロナ禍で中止となってしまいました。

これからの活動に向けて

私たちの主な活動拠点は秋田県森林学習交流館（愛称：プラザクリプトン）で、そこから森林についての様々な情報を発信しています。私たちは、案内活動だけをみても年平均80回、延べにして年500人の案内人を派遣し、その対象者は1,500人にも上ります。会員はだいぶ高齢化してきておりますが、それぞれの得意分野となると任せとけ！とばかりに持ち味を発揮します。

しかし、活動を推進する助成事業や装備などが充実していく一方で、特に県地方部においては高齢により引退者が後を

絶たず、その後継を強力に養成推進していく必要があると考えています。また、拠点となる施設を県内にバランス良く設けるなど、各地域に「心の拠り所となる場所」が必要であり、これらの事につきましては県を始め関係各所に真に検討していただくことをお願い申し上げます。森の案内人が発足してから25年になりますが、今までの歩みを継続するとともに、その経験を生かして更に発展させて行きたいと考えております。

おわりに

私たち森の案内人は、森林の多い秋田県に生まれ、そこで育ち利用し、今ではそれを推進する役割を担って活動しております。大好きな森林・林業、人の原点である母なる自然環境とその活用をこよなく愛する私たち案内人は、今後も森と県民の仲間とともに汗を流し楽しむことしましょう。



森の案内人のメッセージを込めたイベントで立てる旗

緑を楽しむ
ドライブ

みずほの里ロード その1

「みずほの里ロード」とは、横手市と仙北市を結ぶ全長約40kmの大規模農道の愛称です。奥羽山脈の山裾を縫うように走り、仙北平野を望みながら快適なドライブを楽しむことができます。今回は「横手市・美郷町」のエリアを、ロード後編として「美郷町（続編）・大仙市太田地区・仙北市」のエリアをご紹介します。隠れた名所や美しい風景に出会うカントリーロード。ぜひ走ってみてください!!



横手市

県内随一の広大な公園 横手公園



牛沼では毎年ヘラ釣り大会が開催される

ファミリーで楽しめる憩いの公園



街のシンボルでもある横手城を頂きに望む横手公園は、24万㎡という県内随一の広さ。

本丸の北側にはヘラ釣りや、巨大な遊具や蒸気機関車D51が置かれた赤土広場、散策の森、バラ園などがあり、「お城山」として親しまれ、市民憩いの場となっております。

桜の名所として知られる横手公園は、冬には幻想的な姿を見せるかまくら祭りなど、四季折々の美しさを堪能できる公園です。

TEL 0182-32-2118 (商工観光部 観光おもてなし課観光企画係)
横手市城山町 ■車/横手ICより約15分

巨大な遊具のある赤土広場は子供たちに大人気

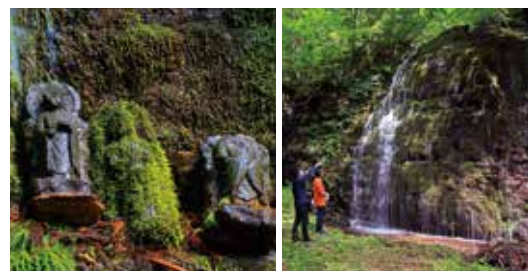
横手市指定文化財(名勝地) 滝ノ沢



静寂の世界へと誘う

市内屈指の景勝地であり、高さ5m、幅10mの滝が苔に覆われた岩棚を白糸のように流れ落ち、風情があります。古くから文人墨客が訪れたと言われ、昭和10年に三十三観音、薬師如来、不動明王、五輪塔が安置され、霊場と言われるようになりました。

TEL 0182-32-2403 (横手市教育委員会文化財保護課) ■横手市睦成字滝の沢地内 ■車/横手ICより約20分、駐車場から徒歩約15分



横手市

源氏と佐竹の紋のある由緒ある神社 金澤八幡宮



荘厳な雰囲気か漂う参道

秋田杉大木の参道奥に兜杉の社がみえる

後三年の役古戦場である金沢柵の跡地と言われている場所にある金沢公園。その園内に金澤八幡宮があります。1093年源義家が藤原清衡に命じて出羽鎮護のため、京都の石清水八幡宮の神霊を勧請して創建。その後、源義光の子孫である佐竹氏が、1602年秋田に遷封されてから厚く信仰され、十数回と改築がなされています。大正15年に大改築され、屋根の中央に源氏の紋、左右に佐竹の紋が配置されています。9月の例大祭には金澤ささら舞、伝統掛唄、相撲などが奉納されてきました。

TEL 0182-32-2403 (横手市教育委員会文化財保護課) ■横手市金沢字安本館4 ■車/横手ICより約20分



兜杉

兜杉は義家が凱旋のとき愛用の兜を埋めて石をその上に置き、そばに記念のため清衡が植えた杉と伝わります。樹高26m、目通り5.5m、樹齢は約900年と伝わる大杉で、昭和58年失火により焼失してしまいました。



屋根中央に源氏、左右に佐竹の紋がみえる



北ノ丸址と相撲場

美郷町

大自然の中でリフレッシュ 六郷温泉あつたか山



大自然に癒されて

温泉の泉質は強アルカリ性で、カルシウムイオンの含有量は全国屈指の高さを誇ります。

温泉、大広間、食堂のある保養館のほか、休憩・宿泊のできるコテージが10棟あります。そのうちの2棟はペット(10kg以下の犬2匹まで)と一緒に宿泊が可能です。ドッグランを併設しており、愛犬と一緒にリフレッシュできます。

美郷産黒毛和牛を使用したバーベキューセットも常備。美しい自然に包まれてアウトドアを楽しめます。

TEL 0187-84-2641 ■美郷町六郷東根字下馬転120 ■車/大曲駅より約30分



全国的にも珍しいドッグランのあるコテージ(写真右)

新日本街路樹百景 松・杉並木



風格のある並木道

明治時代、政治家であり漢詩家であった坂本理一郎(雅号東嶽)は、原野の開発に着目した理想の村づくり構想を抱き、明治30年代に田園都市計画として並木道が作られました。現在では風格漂う並木道として「新日本街路樹百景」に選定されている。

TEL 0187-84-4909 (美郷町商工観光交流課観光班) ■美郷町土崎字上野乙 ■車/大曲ICより約35分

山の中にぽつんとある小さな喫茶店 花fe香fe



自家製のパンや季節の野菜を使ったスープなど、からだにやさしい食事やおやつ…。自然のなかで、ゆっくりとしたひと時をお過ごしください。

TEL 080-3324-5392 ■美郷町黒沢字高野51-17 (みずほの里ロード沿い) ■木、金、ときどき土曜の11時~16時営業。(営業日はFacebookでご確認ください。) 冬季間はお休みします。

あきた
緑化の足跡



当時、記念碑除幕式の様子はテレビ放映された。実行委員会事務局では記念誌「第40回秋田県植樹祭の記録」を発行した。

平成元年5月16日 第40回秋田県植樹祭開催地——秋田市「若人の丘」

記念すべき40回大会として、県立中央公園・青少年教育ゾーン「若人の丘」(3ha)で開催されました。

参加者は佐々木喜久治知事他2000人。テーマは「平成の 大地に育て 豊かな緑」。式典会場は県営トレーニングセンターで、緑の少年団によってキジ40羽を放鳥しました。

植栽樹種はベニヤマザクラ277本、カエデ類170本、ナナカマド50本、ガマズミ50本、マンサク50本、カツラ48本、シラカバ19本、エンジュ4本、ブナ28本、キタコブシ31本、ハルニレ17本、ヤマボウシ他

251本の合計1500本と実施規模は大きなものでした。

植樹地の「若人の丘」は県立中央公園・青少年教育ゾーンの一部にあり、周囲には日本最大級のフィールドアスレチックをはじめ、ファミリーキャンプ場、マウンテンバイクコースなどが整備されています。

「若人の丘」には散策道が設置されており、丘の上からの秋田空港の眺望は隠れた名所となっています。ゆったりと森林浴をお楽しみいただけるエリアです。



駐車場から登っていくと見晴らしの良い丘にでる



散策道からの秋田空港の眺め

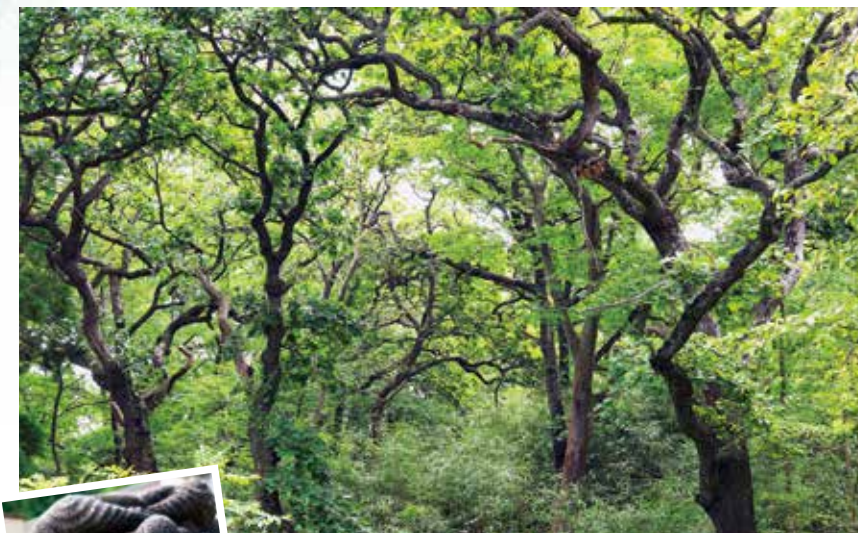


気持ちの良い散策道が続く



Photograph
この一枚

カシワの群生林【潟上市】



潟上市天王町の上出戸「北野神社」の境内林です。本殿裏手に百五十本以上のカシワが、ほぼ純林に近い状態で群生している貴重な林です。本殿裏をくぐると囲むカシワの群生林は、隆々と枝葉をくねらせ神気に満ちた雰囲気です。北野神社は佐竹義処が一六六七年に再興し、秋田藩のお国十二社に数えられた由緒ある神社です。

本殿は一七六一年のもので、大工棟梁は当時秋田一の名工と謳われた湊五郎八。神社鳥居脇に鎮座する狛犬とともに市指定有形文化財となつています。本殿屋根下の四隅には四体の力士像が掲げられ、この像は県内最古と言われています。必見の価値ある北野神社で心静かな時を過ごしてみませんか。



威厳あふれる狛犬は見事な彫刻



本堂を包み込む静寂のカシワ群生林

災害に強い安全安心な県土、安らぎの環境づくり

広域基幹林道「米代線」

県土の保全で暮らしを守る



第8回(令和4年度)秋田県優良業務で知事より表彰
表彰業務 湯沢市榎内沢山地区、緊急機能強化・老朽化対策業務委託



木製治山ダム工(オールウッド型)



CADによる設計



ドローン活用



路網調査

当社は秋田県の森林土木事業を補完する機関として、森林の保全や林業生産の向上を図るための調査・研究、測量・設計等の業務を行っております。

一般社団法人 秋田県林業コンサルタント

〒010-0941 秋田市川尻町字大川反170-169
TEL. 018-865-1133 FAX. 018-865-1134
http://www.akita-forest-con.or.jp/



もりのかぜ・ねっと

緑の募金大使「森っち」

INFORMATION



緑の募金
シンボルマーク

県緑化推進委員会の主な事業

「緑の募金」運動の推進

緑の募金運動を広く展開し、寄せられた善意を主な原資として次のような事業を推進しています。

●地域緑化活動の推進

市町村等が行う緑化イベントへの支援

●緑化思想の啓発

チラシ、看板、キャンペーン、機関誌発行、緑化関係表彰

●県民参加の森づくり推進

森林祭等開催、市民グループ森づくり活動支援

●森林ボランティア育成

ボランティア活動支援、リーダー養成

●緑の少年団等育成

交流集会、学校緑化コンクール、学校緑化活動支援、子供木づかい体験

●名木・古木等の保護

診断、調査の支援

●国土緑化運動

国土緑化推進機構連携事業、緑と水の森林ファンド活用事業

※秋田県緑化推進委員会は、国土緑化推進機構・各都道府県緑化推進委員会と連携し、緑の募金による東日本大震災・熊本地震被災地のみどりの再生支援を行っています。

TOPICS1

《荣誉》令和3年度東北・北海道地区緑化功労賞 被災地に「花」を届けて10年——大仙市立太田中学校

大仙市立太田中学校(佐藤嘉弘校長)は、令和3年度東北・北海道地区緑化功労賞を受賞しました。伝達式は11月15日に同校の校長室で行われ、当委員会理事で大仙市緑化推進委員会会長の高橋和政さんから、生徒3名に表彰状と感謝状そして副賞が贈られました。

同校は、県主催の学校緑化コンクールでは上位入賞の常連校で、花づくりの実力はトップクラス。それに加え、震災のあった2011年から2020

年までの10年間、東日本大震災で被災した大槌町立大槌学園に、花のプランターおよそ300個を送り続けたことが高く評価されました。

復興支援は、地域を超えた交流活



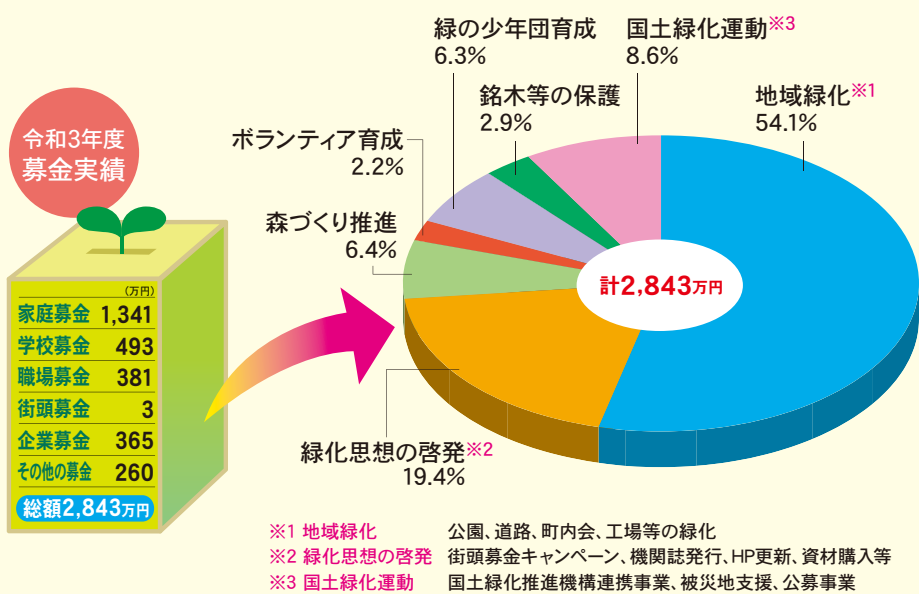
表彰状を受け取った太田中の生徒と高橋理事

動に名前を変え、これからも花のプレゼントは継続していくとのことです。まさに、校訓である「継続と徹底(合言葉:コツコツ とことん)」が花開いた荣誉といえます。



全校生徒が力を合わせて育成管理する花だん

緑の募金は、このように活用されました！



令和3年度
募金実績

募金種別	金額(万円)
家庭募金	1,341
学校募金	493
職場募金	381
街頭募金	3
企業募金	365
その他の募金	260
総額	2,843万円

※1 地域緑化 公園、道路、町内会、工場等の緑化
 ※2 緑化思想の啓発 街頭募金キャンペーン、機関誌発行、HP更新、資材購入等
 ※3 国土緑化運動 国土緑化推進機構連携事業、被災地支援、公募事業

ダイドードリンコ(株)では、環境貢献として飲料自動販売機による「緑の募金」活動に協力しております。

「緑の募金自販機設置」のお願い

新規設置の自動販売機が対象です。設置、ご紹介の協力をお願いします。

目印はこのパネル!!

この自動販売機の収益金の一部は、「緑の募金」に寄付されます。



もりのかぜ

Vol.14

編集・発行

令和4年8月31日(水)発行

公益社団法人 秋田県緑化推進委員会
 〒010-0941
 秋田市川尻町字大川尻170-169 森林環境会館内
 TEL 018-883-0815 FAX 018-883-0816
 [Eメール] akiryoku@estate.ocn.ne.jp
 URL http://akiryoku.ec-net.jp/

制作
有限会社 パレア

〒010-0942 秋田市川尻大川町2-8
 TEL018-896-7225 FAX018-883-0004

編集後記

▼年に数度あるかないかのピカ晴れの日、甌山(表紙)の取材に同行した。秋田一山形往來の折、国道13号から見える「もっこり」とした山の正体がいつも気になっていた。女甌山頂からの展望と高度感には感動。会心の一撃とは正にこのこと。

▼一転してコロナ第7波。新規感染者数は一千人オーダー、病床使用率は50%を超えた。子どもたちが楽しみにしていた「緑の交流集会」は悩んだ末に中止。

▼お盆をはさみ、竿灯、大曲の花火と夏のイベントは続く。行ってみたい気持ちはやまやま…。どうやら自分の身は自分で守るしかなさそう(智)。

みんなが森林の応援団!!

緑の募金

への協力と森林づくりへの参加をおねがいます。
 ■緑の募金は、地域の環境緑化活動や森づくり活動への支援に使われます。



いつでも どこでも 振込でも
募金強調期間

春季 4月10日～ 5月31日
 秋季 9月 1日～ 10月31日

実施主体 / (公社) 秋田県緑化推進委員会
 市町村・市町村緑化推進委員会

緑の募金でふせごう地球温暖化

TOPICS2

《助成事業》学校環境緑化モデル事業 校庭に「水辺の森」誕生——横手市立大森小学校

草木が生い茂り誰も寄りつかなかった校庭の池が、学校環境緑化モデル事業によってリニューアルしました。この事業は(株)ローソンが社会貢献活動として「みどりの募金箱」を全国各店舗に設置し、この募金を原資として国土緑化推進機構と県緑化推進委員会が学校の施設整備に助成するものです。令和3年度は全国45都道府県で72校が実施し、本県からは横手市立大森小学校1校が選ばれました。



もともとあった樹木や石材を活かしリニューアルした「水辺の森」



ハスやマコモ、宿根草を植栽し樹木の剪定や整形を実施

に行われました。この日は朝から土砂降り、式典は校庭から体育館に変更しての実施となりました。全校児童172名が集まり、板井亘校長先生からあいさつがあった後、ローソン地元店オーナーの太田茂寿さんから「緑の大切さ」についてお話がありました。これに対し、児童を代表して佐々木音和さんがお礼の言葉を述べ、そのあと全員で記念写真を撮りました。「水辺の森」とは、とても親しみやすい名前です。名付け親の菊池元教頭先生は「水辺は陸域と水域の境に



池の中の生き物を不思議そうに眺める女子

あり、両領域の生物が集まるので生態系がとても豊かな場所です。アスファルトに覆われた校庭にあってオアシスのような存在となりました」と喜びの声。池の中にはハスやマコモ、周囲にショウブやギボウシなどの湿地を好む植物が囲み、やがて池をめぐってトンボやアメンボがやって来ます。また、トチノキやモミジは木陰を作り、苔むした巨岩はヌシと言わんばかりの存在感を示しています。「昆虫好き、冒険好き」の子どもたちにとって人気の遊び場となりました。



木に登り石の上でスリルを味わう男子



記念式典後にみんなでパチリ



だから、安心です!!

JAS製材品は、品質・性能が明確!!

JASは 安心の証明マーク

木造建築物には、
JAS製材品を使いましょう。

JAS製材品は、品質・性能を明らかにして出荷された製材品です。この製品は、「日本農林規格等に関する法律」(JAS法)に基づき認証されたJAS工場で品質管理及び格付のための検査・試験を行い消費者の皆様を提供されており、安心してお使いいただけます。

お問い合わせは

秋田県木材産業協同組合連合会

〒010-0003 秋田県秋田市東通二丁目7-35
TEL:018-837-8091/FAX:018-837-8093
<http://a-mokuren.jp>